

目 次

I 戦乱の世に生きた両雄	1
1. 武田信玄	1
2. 上杉謙信	4
II 戦いの日々	8
1. 武田氏の信濃進攻	8
2. 諏訪攻略	9
3. 伊那進攻	10
4. 佐久制圧	11
5. 上田原の戦い	12
6. 塩尻峠の戦い	12
7. 戸石崩れと葛尾城自落	14
III 両雄の対決	15
1. 布施八幡の戦い	16
2. 犀川の対陣	17
3. 上野が原の戦い	18
4. 八幡原の戦い	19
5. 八幡の対陣	30
IV 戦乱の惨禍	32
1. 農村の荒廃	32
2. 善光寺如来の流転	33
展示資料目録	34

例 言

1. 本書は第21回企画展「信玄と謙信」の展示解説として作成しました。
2. 紙面の都合で、展示資料のうち割愛させていただいたものも多く、ご好意に添えなかった失礼をお詫びいたします。
3. 本書を作成するにあたって、いくつかの書籍から図を転載させていただきました。〈文〇〉で出典の文献を番号で記しました。
4. 期間中、資料保存のため一部展示替えをします。
5. 本書の解説執筆は和田博・山口明、編集は山口明が担当しました。

開催にあたって

長野市のある善行寺平(長野盆地)は前後5回にわたる信玄と謙信の「川中島の戦い」が行われた地として有名です。特に永禄4年の合戦では博物館の周辺が激戦の場となったと伝えられ、今もなお「川中島古戦場」として語りつがれています。

全国にわたって、群雄が割拠する戦国時代は15世紀半ばから16世紀半ばまで約100年続きました。信玄と謙信が相争ったのは16世紀の半ばで戦国時代末期でした。

そのころ信濃では守護大名の小笠原氏の分裂・抗争によって、地域勢力の分立状態に陥っていました。隣国甲斐では信玄の父信虎の時代に領国はいちおう統一され、領土拡大の態勢に入っていました。

その武田氏の進出の舞台となったのが信濃の地でした。信虎の後を継いだ信玄は諏訪・伊那・佐久・上田に進攻し、更に善光寺平に進出してきました。

ここに至って謙信との12年間にわたって相争う「川中島の戦い」が始まり、この戦いは信玄にとっては信濃における総決算だったと言えます。

このように信濃では戦国大名武田氏による争乱が各地で繰り返され、地域の民衆を戦禍の中にまき込んでいきました。

中世以来の古い政治体制や社会秩序が動乱によって払拭され、新しい社会体制・社会生活・経済へと変質していく、まさに大きな転換期にあたるのがこの戦国時代です。従って、「川中島の戦い」はこうした転換期における象徴的な出来事だったととらえることができます。

今回の展示では、信濃を舞台とした信玄・謙信・土豪たちの群像と過渡期の時代的状况を「川中島の合戦とその周辺」を通してみていただこうと企図しました。

本展開催にあたり、貴重な資料をご出品いただいた方々、並びにご指導・ご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

昭和63年10月2日

長野市立博物館